

# ほめ合うグループ面談は、 自分の役割と他者を理解する 気付きの場

愛知学泉大学コミュニティ政策学部は、「社会人基礎力」について、ガイダンスやシート記入を通じて学生の中にゆるやかに浸透させ、活動での発揮実感を蓄積させた後に学生自身がその必然性に気付くことで、さらなる発揮動機につながってゆくという考えに立ち、育成や振り返り活動を行っています。

「地域に貢献する人材の育成」という学部の教育目標に、  
振り返りと気付きを活用する

この学部は行政やNPOなどまちづくりに貢献する人材の育成を意識し、地方行政、環境・福祉・スポーツ政策、地域・国際ボランティア、地域マネジメントという4つのコア

スを設定し、問題発見と解決を目指した科目を配置しています。最も特色ある科目である3年次の「コミュニティ運営実習」（必修）は、担当教員の専門性とネットワークに基づいて、福祉団体や自然保護団体、スポーツ団体、自治会、地元農家、自治体、企業などと連携し、企画・運営などの学外での実践的な活動を通じてコミュニティの現実的理解を進めるもので、「社会人基礎力」の発揮場面が十分あるものです。

この「コミュニティ運営実習」では、メンバーが一つの目標を共有し、役割意識を持つてよりよいチーム活動を行うことが求められますが、平成21年度はここに振り返りと面談を導入しました。「自己目標設定・評価シート」に学生は自分に期待されている役割を明記し、活動の後、チームとして活動できたか、チームの一員として役割が担えたかという点を重視して振り返り活動を行います。

また他者評価・外部評価の方法としてグループ面談も可能とし、学生同士でチーム活動におけるお互いのよい点を指摘し合うことを取り入れました。お互いを承認することは、自己効力感、自己肯定感を高め、仲間への好意的感情を引き出すため、その後のチーム活動がしやすくなり、チームの結束力も高まります。さらに、他人を承認する、受け入れる、気遣うといった、他者理解の視点を持つ機会にもなりました。コミュニティ政策学部では他者への配慮を重視していますが、グループ面談にはその効果がありました。

他者評価・外部評価を経て、学生は再度自己評価します。他者か

## コミュニティ運営実習のテーマ（平成21年度）

|        |                                                                                               |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 伊藤雅春先生 | 愛知県みよし市農村生活アドバイザーの方と連携し、大学キャンパスでファーマーズマーケットを定期開催。                                             |
| 岡田洋司先生 | 愛知県岡崎市の戦前期の映像をデジタル・データ化している「岡崎アーカイブ・センター」と連携し、歴史資料を後世に伝える活動の重要性和難しさを学ぶ。                       |
| 小坂啓史先生 | 豊田市内の福祉団体と連携し、介助やレクリエーション活動の企画・運営を行うことを通して、福祉コミュニティについて学ぶ。                                    |
| 三村聡先生  | 愛知県豊田市逢妻地域を対象として、逢妻地域会議、小学校、中学校、高校、豊田市役所、トヨタ自動車、シンクタンクと連携し、小学生・地域住民を交通事故から守るための活動の企画・運営に参加する。 |
| 矢部隆先生  | 渥美自然の会、あかばね塾などと連携し、諸活動（自然観察会、環境調査、会誌発行、会合）に参加し、活動の企画や組織運営を体験し学ぶ。                              |
| 山崎丈夫先生 | 名古屋市森の里荘自治会、豊田市逢妻地域コミュニティ会議と連携し、行事に参加・運営し、組織運営から地域活動について学ぶ。                                   |
| 山本達三先生 | 地域のスポーツクラブを運営するNPOや総合型地域スポーツクラブと連携し、大学の施設を地域に公開し、スクール事業やイベント事業を実施し、スポーツイベントの企画運営を体験し学ぶ。       |

資料提供 愛知学泉大学コミュニティ政策学部

ら肯定的に捉えてもらった自分の強みを再度自分なりに表現し直すことで、就職活動などでの自分の行動を客観的にかつ肯定的に語る訓練にもなります。

社会人基礎力の意識付けは、最初はゆるやかに

「社会人基礎力」に関しては、1年次からゆるやかに意識し始め、3年次のこの「コミュニティ運営実習」で本格的に「社会人基礎力」を意識しながら活動する、という流れにしています。1・2年次の科目自体が3年次での本格的な活動に備える科目ですので、「社会人基礎力」についても1・2年次は準備です。

1年次では「社会人基礎力」についてのガイダンスを行います。が、「社会に出て働くときに、外側から評価される項目としてこういうものがある」という程度の理解で十分としています。2年次の「演習1」また「演習2」では、3年次での本格実施の準備として、シートの記入をし、担当教員による他者評価を行い、「社会人基礎力」についての意識を高めます。

1年次の「基礎演習」また2年次の「演習」では、読んだり、書いたり、発表したり、議論したりすることを学びますが、そこでは「ただ聞くだけではなく、自分で調べたり発言してみたりすることが大事なんだよ。それが『社会人基礎力』につながるっている」「こういうゼミやグループワークを通じて、自分の苦手なところやコミュニケーションをどう取るかなどを意識しておいたほう

3年間の社会人基礎力育成プログラム(育成を導入する科目)(平成21年度)

|     | 実施科目            | 社会人基礎力に関する活動                       |
|-----|-----------------|------------------------------------|
| 1年春 | コミュニティ政策学入門(必修) | 社会人基礎力の説明                          |
| 1年秋 | コミュニティ政策学総論(必修) | 社会人基礎力の説明                          |
| 2年春 | 演習1(必修)         | シートの記入の練習<br>担当教員による他者評価(グループ面談も可) |
| 2年秋 | 演習2(必修)         | シート記入<br>担当教員による他者評価(グループ面談も可)     |
| 3年春 | コミュニティ運営実習1(必修) | プログラムの本格実施                         |
| 3年秋 | コミュニティ運営実習2(必修) | シートの記入<br>外部評価(グループ面談も可)           |

資料提供 愛知学泉大学コミュニティ政策学部

がいいよ」と話す程度です。「『社会人基礎力』のためにこう頑張ろう」という明確な位置付けはあえてしていません。

教員からのアドバイスを受け、もう一度振り返る

平成21年度は、2年次の春期の「演習1」(必修)で「自己目標設定・評価シート」(次頁)を書く練習をし、秋期の「演習2」(必修)では半期を通して、3年次の「コミュニティ運営実習1・2」では春と秋の1年間を通して、シートの記入を行いました。シートは2・3年生で同じものを使用しています。

学生は「12の能力要素」のそれぞれについて、まず初めに現在の自分にとっての「難易度」を5段階で自己判断し、それとともに「自己目標」や「意識したい社会人基礎力」を自分の言葉で記入します。そして「演習」や「コミュニティ運営実習」での活動の後、「発揮レベル」つまり目標達成に向けて「社会人基礎力」をどれくらい発揮できたかを5段階で自己評価します。

そして、「演習」では担当教員が他者評価を、「コミュニティ運営実習」では担当教員以外の教員や学外の実習先関係者が外部評価を行い、学生自身が記入した「発揮レベル」を見て、「このように自己評価をしているが、もつとあの点やこの点なども評価してもよいのではないか」などのアドバイスをし、再度学生に自己評価を促します。学生はまず自分で一度振り返り、教員などのアドバイスを新たな気付きとして、もう一度振り返りしていることになります。

## 自己目標設定・評価シート(平成21年度)

| ■自己目標設定・評価シート                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  | コミュニケーション運営実習(○○)                                                                                                                                                                                                                           |  | 年 月 日                                                                                                                                                                                                                                       |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <b>【社会人基礎力】</b><br>①主体性 自分としての考えを持つ<br>②読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>③働き方 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>④読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>⑤読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>⑥読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>⑦読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>⑧読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>⑨読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く<br>⑩読解力 自ら目標設定・計画の 意図が 読み解く |  | <b>★役割期待</b><br>(例)<br>1 教員または外部指導者の指導に基づき授業内容を説明できる。<br>2 教員または外部指導者の指示に基づき決められた課題が実行できる。<br>3 グループでの話し合いで自ら発言し、相手の意見を理解して返答できる。<br>4 グループでの話し合いに基づき自らプロジェクトの一部を担当できる。<br>5 地域や行政、企業の人たちと意見交換ができる。自らの役割を発揮できる。                             |  |                                                                                                                                                                                                                                             |  |
| <b>【自己目標設定】</b><br>① 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>② 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>③ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>④ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑤ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑥ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑦ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑧ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑨ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑩ 1 0 年度 教員実習 教員実習                                                     |  | <b>【自己目標設定】</b><br>① 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>② 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>③ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>④ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑤ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑥ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑦ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑧ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑨ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑩ 1 0 年度 教員実習 教員実習 |  | <b>【自己目標設定】</b><br>① 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>② 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>③ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>④ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑤ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑥ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑦ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑧ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑨ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑩ 1 0 年度 教員実習 教員実習 |  |
| <b>【自己目標設定】</b><br>① 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>② 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>③ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>④ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑤ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑥ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑦ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑧ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑨ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑩ 1 0 年度 教員実習 教員実習                                                     |  | <b>【自己目標設定】</b><br>① 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>② 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>③ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>④ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑤ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑥ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑦ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑧ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑨ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑩ 1 0 年度 教員実習 教員実習 |  | <b>【自己目標設定】</b><br>① 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>② 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>③ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>④ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑤ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑥ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑦ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑧ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑨ 1 0 年度 教員実習 教員実習<br>⑩ 1 0 年度 教員実習 教員実習 |  |

## 担当外の教員も面談を行う

3年次の春の段階までは担当教員が口頭でアドバイスをしていますが、3年の秋には外部評価を行います。担当教員以外の教員や運営実習の実習先関係者が、学生と面談してその内容を文章にして学生に返し、その結果を受けて学生は自己評価をし直すという形を取っています。

外部評価は、実習先に依頼することを基本としています。一緒に活動をしており、学生それぞれの活動を知っています。課題を提示するサイドが、課題の進捗状況や活動内容と照らし合わせて、学生を評価することは自然な流れです。教員とは異なる、実社会で活動する人の視点からの評価やアドバイスは、学生には刺激となり、新たな気付きにつながります。平成21年度は、実習先の自治会の会長や役員が手分けして学生3人ずつくらいで面談を行ったケースもありましたし、実習先の団体の代表者が学生一人ひとりを面談したケースもありました。しかし、先方の負担を鑑み、「担当教員以外の教員が面談を行う」という方法も可能となりました。学生にとっては、自分たちの活動がどのようなのかを、活動の内容を知らない人に説明してみる機会になります。一方、教員にとっては、他の教員の授業を垣間見ることになり、自分の授業の参考になることもあります。教員同士手法を検討し、共有し合える機会になります。同じ学部の教員であり、学部教育の目的を共有できているので、効果的な面談になっている可能性も高いと言えます。

## 学生が互いを認め合うグループ面談

平成21年度に担当教員以外の教員が面談したケースを一つ紹介します。

その運営実習では8名の学生についてグループ面談の時間を設けました。まずその運営実習の活動の概略を説明してもらい、学生それぞれにチームの活動の中で自分の役割を説明してもらいました。そしてその後、メンバーのどんな点がよかったか、互いに指摘し合うということをしました。前述したように、よい点を指摘し合うことには、自信、自己効力感、他者への好意的感情などさまざまな効果があります。また、人のよい面を見るところという訓練は、他者理解という「柔軟性」の発揮など、「社会人基礎力」そのものの発揮につながっていく面もあります。

その後、学生それぞれに、各自のシートをもとに「12の能力要素」について、自分の意識したところを話してもらいました。「自分はこういうところが伸びた」「こういうところが弱いから、ここは工夫しよう」といった気付きの言葉が出てきました。

面談による外部評価は、文章にして学生に渡すということだけを決め、特にフォーマットを決めていません。このケースでは、面談を通して受けた印象（外部評価者の理解）と実際のなアドバイスの2項目を、A5サイズ1枚にびっしり書き、担当教員から学生に渡してもらいました。学生はこれをもとに、再度自己評価を行いました。

### まずは「3つの力」から

自己評価、他者評価・外部評価などの評価について、コミュニティ政策学部では、比較的ゆるやかなスタンスで取り組んでいます。評価は、あくまでも学生自身の振り返りの場であり、自分の強みを知り、弱みはどのように改善していくかという発想を持たせることが大切だと考えています。

当時コミュニティ政策学部の教務担当だった村林聖子准教授は「学生が自分自身を振り返る際に、社会で求められているということを知る意味で『12の能力要素』は有用だと思っています。3年次の後期になると就職活動で学生はエントリーシートなどを書きますが、『自己目標設定・評価シート』の記入などの機会に言語化しておけば、自分の長所や短所などが書きやすくなるという利点があります。その意味で、3年生で振り返り活動を本格化することは、学生にとっては意味のあることだと思われます」と言います。

「学生は『社会人基礎力』について、実際に活動を行っているときには特に意識しなくてもいいと思っています。せいぜい意識するにしても『3つの力』でよいと考えています」と言います。また、「12の能力要素」については1年次の初めに「3つの力がそれぞれ3・3・6の要素に分かれている」と説明していますが、『3つの力』だけでまずはいいのではないでしょうか。『3つの力』について話した後に『じゃあ、チームで働く力って何だろう』と話し合う機会を設けることもできます」と話しています。